

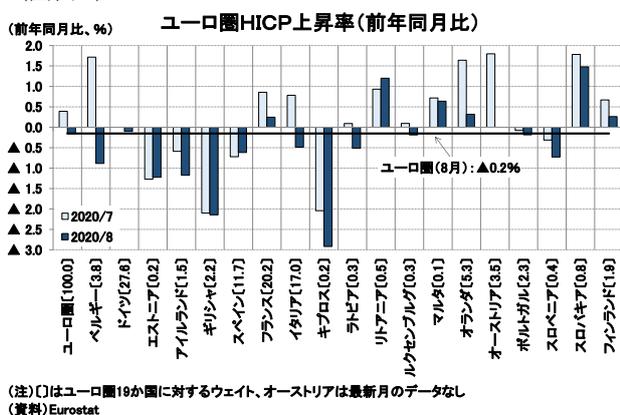
0.1%) ことに加えて、「サービス」も減速傾向が続いており（7月+0.9→8月+0.7%）、2か月連続で1%を割っている（図表2）。サービスでは品目が公表される7月までの動向をみると、コロナ禍の影響を大きく受ける「外食・宿泊」での減速が目立っている。前月比では、コア部分が▲0.5%と下落が続いている。内訳は「エネルギーを除く財」が▲1.6%、「サービス」が+0.0%となり、例年7月に実施される値引きシーズンが後倒しされたことで、8月の前月比マイナス幅が拡大した。

次に「エネルギー」を見ると、8月は前年同月比▲7.3%（7月▲8.4%）、前月比+0.0%（7月+0.5%）となり、上昇傾向が一服した。前年同月比寄与度では▲0.80ポイント（7月：▲0.83%ポイント）となり前月よりは縮小したものの、全体のインフレ率を低下させている（前掲図表1・2）。

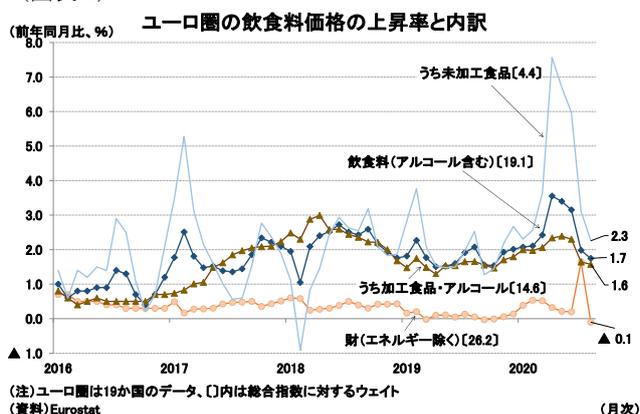
一方、「飲食料（アルコール含む）」は前月比で▲0.1%（7月：同▲1.0%）と小幅だが前月に続き下落、前年同月比伸び率でも+1.7%（前月：同+2.0%）と減速傾向が続いている（図表3）。未加工食品も前月比▲0.4%と下落した。

全体として見ると、「エネルギー」価格の低迷が続くなか、「コア部分」、「飲食料」のいずれも減速したことで、2016年5月以来の前年同期比マイナスを記録した。

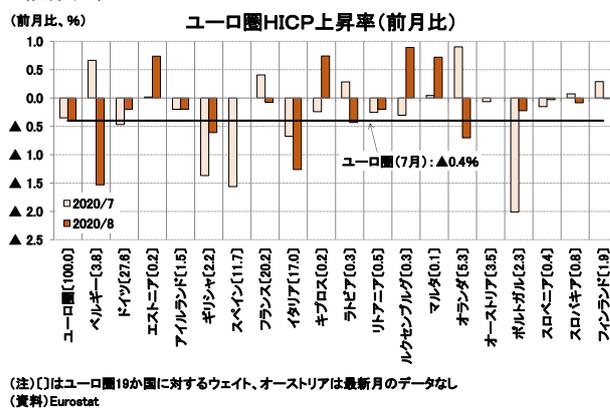
（図表4）



（図表3）



（図表5）



国別のHICP上昇率を見ると（図表4・5）、8月は前年同月比では未公表のオーストリアを除く18か国中12か国で減速し、また12か国が前年同月比でマイナス圏に突入している。7月は夏の値引きシーズンが後倒しされたことでベルギー・フランス・イタリアでは上昇が目立っていたが、8月はインフレ圧力が緩和された。また、ドイツでは7月以降のVAT引き下げによるインフレ率の減速が続いている⁴。

ユーロ圏では広範囲の品目にわたって物価上昇圧力が減っており、「コア部分」の上昇率もゼロ%前半まで低下した。今後も需要低迷が長期化すると見られることから、総合指数ではゼロ%前後での推移となると見られる。

⁴ 税率で19%→16%（軽減税率は7%→5%）への引き下げを12月まで実施する予定。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保障するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。